

近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会 会長あいさつ

近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会
会長 菅生 和己（京都府立中丹支援学校）

皆様こんにちは。今年度より近畿地区特別支援学校 肢体不自由教育研究会の会長を仰せつかっております京都府立中丹支援学校の菅生です。どうかよろしくお祈いします。

まず始めに、この夏には私たちが今までに経験したことがない自然災害が様々に発生し、多くの方が甚大な被害を受けられました。尊い命を失われた方には心よりお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様の1日も早くの復興を願うばかりです。

さて、第64回となります近畿地区特別支援学校 肢体不自由教育研究協議会 開催のご案内をしましたところ、授業日にもかかわらず、近畿各地から多くの皆様のご参加を得ることができ、心よりお礼申し上げます。

ご来賓の皆様には、大変ご多用の中、ご臨席を賜りましたこと、また、平素より本研究会への深いご理解とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

平成19年に特殊教育から特別支援教育に転換し、今年度で12年目を迎えております。この間、国連の障害者の権利に関する条約への批准に関わり、国内関連法の改正や新たな法の制定が行われました。教育に関わっては共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築が提起され、多様な学びの場の充実のため、特別支援教育を着実に進めることが求められています。

また、昨年3月には、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるのか」を柱とし、「社会に開かれた教育課程」を理念とする新たな学習指導要領が公示され、「主体的・対話的で深い学び」により、子どもたちのできる力を高め、自立と社会参加のさらなる充実と共生社会の実現に向けたこれからの特別支援教育のあり方の指針が示されたところです。

このような時流の中ですが、学校現場では、現役の世代交代が大変ダイナミックに進み、若手教員の育成と世代間の継承、さらなる専門性の向上は各学校とも喫緊の課題となっていることと思ひます。

近肢研では、近畿における肢体不自由教育の研究推進とその振興を図ることを目的として、長年にわたり夏季研修会と本日の秋の研究協議会の二つの取組を大きな柱とし、関係の皆様のご参加を得て、肢体不自由特別支援学校の人材育成に脈々とつなげ、肢体不自由教育に携わる先生方の専門性の維持向上に微力ながら務めてきたところです。

本日は、全体会講演において、国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部主任研究員 北川貴章様から「主体的、対話的で深い学びの実現をめざす授業づくりについて」と題して、新たな学習指導要領の理念を生かす、これからの授業改善の在り方についてのお話を伺ひます。

また、7つの分科会では、貴重な授業実践の提案を軸に、子どもたちが主体的に学ぶ授業へのさらなる改善に向けた協議を深めていただきます。

これらのご講演や分科会での協議をとおして、肢体不自由教育に携わる先生方のさらなる専門性の向上につながることを願ひます。

それぞれご講演や分科会でのご提案等をいただく皆様、どうかよろしくお祈いいたします。

結びに、本研究協議会の開催にあたりましては、大阪府立藤井寺支援学校にて主管校を担っていただき、主管となります阪和ブロックが一体となって連携して準備を進めていただきましたことに、心より感謝を申し上げて、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。